

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 29 年 5 月 22 日	
所属部局・職	野生動物研究センター・博士課程学生
氏名	佐藤 侑太郎

1. 派遣国・場所 (○○国、○○地域)
瀬戸臨海実験所、京都市動物園、生態学研究センター、霊長類研究所、日本モンキーセンター
2. 研究課題名 (○○の調査、および○○での実験)
インターラボ
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 29 年 4 月 5 日 ~ 平成 29 年 4 月 9 日 (4 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (○○大学○○研究所、○○博士/○○動物園、キュレーター、○○氏)
京都大学 理学研究科 生物科学専攻
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
目的 本出張は、瀬戸臨海実験所、京都市動物園、生態学研究センター、霊長類研究所、日本モンキーセンターを見学し、京都大学における生物多様性研究の現状を概観すること、および理学研究科生物科学専攻の学生間の親睦を深めることを目的に行われた。
概要 4月5日(水)、6日(木) 瀬戸臨海実験所、白浜水族館、南方熊楠記念館を見学 4月8日(土) 京都市動物園、生態学研究センターを見学 4月9日(日) 霊長類研究所、日本モンキーセンターを見学
所感 瀬戸臨海実験所では、研究員の方のお話を伺うことで、実験所で行われている研究について概観することができた。また、引率の久保田先生のご案内で、磯に実際に生息する生物を見学することができた(図1)。海洋生物についての知識はほとんどなかったが、丁寧に説明いただき、有意義な時間を過ごすことができた。また、南方熊楠記念館では、館長によるレクチャーを受けることができ、南方熊楠の功績や人柄について学ぶことができた。 京都市動物園では、生きた動物だけではなく、骨格標本の展示などについてもお話を伺った。また、主に霊長類を対象とした認知実験も行われているとのことであり、大変興味深かった。午後の生態学研究センター見学では、種々の動植物を対象とした研究技法やその設備を直接見ることもできた。 霊長類研究所では、ニホンザルやチンパンジーの飼育・実験環境や、標本などの資料を見るこ



図1 白浜の磯。磯の上を歩き、海藻や貝類などを観察した(4月6日撮影)。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

とができた。また、日本モンキーセンターにはさまざまな種の霊長類が展示されていた（図2）。文献で名前を見たことのある霊長類種を直接見ることができ、大変勉強になった。



図2 日本モンキーセンターのアヌビスヒヒ（左）とバーバリーマカク（右）。文献で名前を見たことがあったが、生きている姿を見たのは初めてであった（4月9日撮影）。

6. その他（特記事項など）

本実習中お世話になった、瀬戸臨海実験所、白浜水族館、南方熊楠記念館、京都市動物園、生態学研究センター、霊長類研究所、日本モンキーセンターの先生方、関係者の皆様に深く感謝申し上げます。